

令和8年度 健康福祉委員会資料

1 所管事務の調査（報告）

（1）麻しんの流行に伴う予防対策の強化・拡充について

資料 麻しん（はしか）の流行に伴う予防対策の強化・拡充について

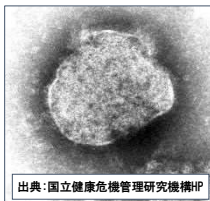
参考資料 令和8年度のMRワクチンの供給見込みについて

健康福祉局
(令和8年5月21日)

1 麻しん(はしか)の概要

(1) 麻しん(はしか)とは

- 麻しんウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症で、**感染力が非常に強く、免疫をもっていない人が感染した場合、ほぼ100%発症**する。
- **一度感染すると免疫は生涯持続する**と言われている。



(2) 主な症状

- 約10日後に**発熱や咳・鼻水・目の充血**等の風邪症状が現れる。
- 2～3日熱が続いた後、**39度以上の高熱と発疹**が出現する。
- 肺炎・中耳炎を合併しやすく、1,000人に1人程度の割合で脳炎を発症する。



(3) 感染経路

- **空気感染**・飛沫感染・接触感染でヒトからヒトへ感染する。
- **インフルエンザの約10倍**の感染力がある。
- **発症する1日前から解熱後3日を経過するまで**周囲への感染力がある。

[基本再生数(Ro)]

区分	麻しん	水痘	百日咳	ジフテリア	インフルエンザ*	天然痘	新型コロナ
Ro	12~18	8~10	12~17	6.1	1~2	3~6	2.1~5.1

出典:国立健康危機管理研究機構

(4) 治療方法

- 治療薬など、**特異的な治療法はない**。
- 発熱に対する解熱剤など、症状に応じた**対処療法が中心**となる。

(5) 予防対策

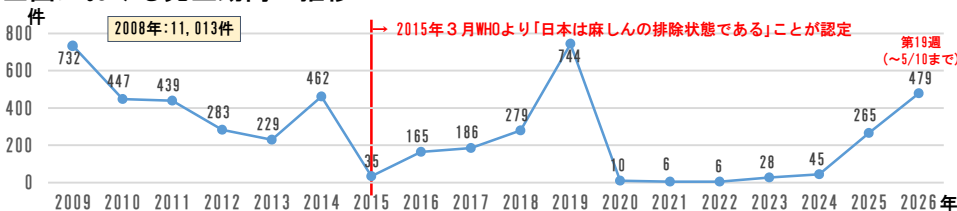
- 手洗い・マスク等の**基本的な感染対策だけでは十分に予防できない**。
- **最も効果的な予防法は「麻しん含有ワクチン」の接種**で、2回接種することで、発症・重症化・周囲への感染リスクを低下させる。



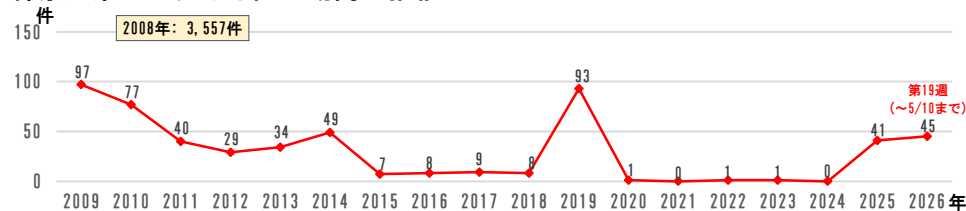
※「**五類感染症全数把握疾患**」のため、**発生時は「積極的疫学調査」**を実施

2 麻しん(はしか)の発生動向

(1) 全国における発生動向の推移



(2) 神奈川県内における発生動向の推移



(3) 川崎市内における発生動向の推移

区分	2008年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
発生届	224件	11件	0件	0件	0件	1件	0件	2件	27件

3 川崎市における麻しん(はしか)の予防対策(現行の取組)

(1) 定期予防接種

ア 対象者

- ・ 第1期(1回目接種):生後12月から生後24月に至るまでの間にある者
- ・ 第2期(2回目接種):小学校入学の前年度1年間(4月1日～翌年3月31日)

イ 使用ワクチン

「麻しん風しん混合ワクチン(MR)」
又は「麻しんワクチン」

ウ 個別勧奨(対象者あて案内通知の送付)

- ・ 第1期:1歳の誕生月の翌月
- ・ 第2期:小学校入学の前年4月

【対象者等の変遷】

- ・ 昭和47(1972)年9月30日以前生まれ:
定期予防接種が実施されていない対象者
- ・ 昭和47(1972)年10月1日
～平成2(1990)年4月1日生まれ:
定期予防接種が1回実施の対象者
- ・ 平成2(1990)年4月2日
～平成12(2000)年4月1日生まれ:
定期予防接種が1回実施の対象者(ただし、2回目の特例措置あり)
- ・ 平成12(2000)年4月2日以降
定期予防接種が2回実施の対象者

(2) 未接種の子どもに関する対応(無料の任意予防接種)

ア 対象者

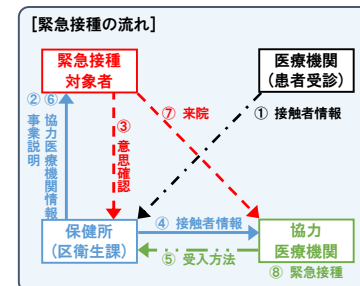
- ・ 市内在住の第1期又は第2期末接種接種で次に該当する者
- ・ 第1期:2歳～3歳に至るまでの間にある者
- ・ 第2期:小学校1年生

イ 使用ワクチン

3(1)イと同じ

(3) 麻しんワクチンの緊急接種

- ・ 流行を踏まえ令和7年度開始(R7県→R8市事業)
- ・ **麻しん患者との接触から72時間以内で、保健所が必要と判断した者**に対して緊急接種を実施



麻しん(はしか)の流行に伴う予防対策の強化・拡充について

4 流行状況を踏まえた課題

(1) 収束の見通し

- 令和8(2026)年5月13日現在、第19週までに全国で479件の麻しんが発生し、現状が継続すると、**令和元年(2019)年の流行(744件)を上回る**ことが予想される。
- 収束時期は不透明なため、**流行の長期化も想定**する必要がある。

(2) 感染経路の特定

- 日本は麻しんの排除状態であるため、渡航時や来日者からの感染が想定されるが、**渡航歴のない者も感染しており、過半数が感染経路を特定できていない。**

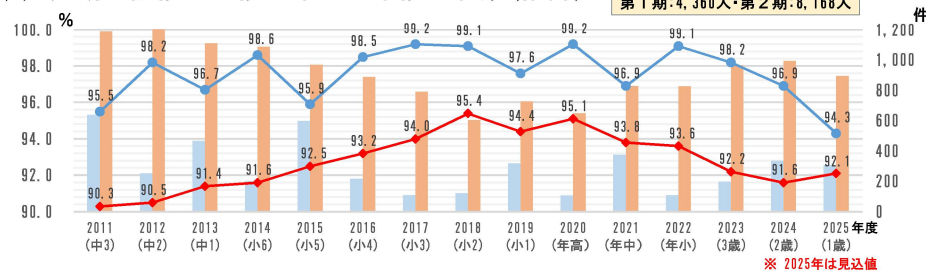
(3) 予防と対策

- 基本的な感染対策だけでは麻しんを防ぎ切れないため、最も効果的な予防法はワクチン接種となるが、**一部には罹患歴・接種歴がない者が存在**する。
- 定期予防接種について、**国は接種率95%以上を目標**としている。
- **乳児の重症化リスクは高い**が、原則、**0歳児はワクチンを接種できない。**

5 予防対策の強化・拡充

【取組1】子どもに関する対応の強化

(1) 定期予防接種の接種率及び未接種者数(推計)



(2) 無料任意予防接種の対象拡大

ア 目的

『未接種者(0回)を減少させるとともに、確実な2回接種を進める』

イ 対象者の拡大及び目標

- ・ 第1期:**中学校3年生まで** 【目標:**100%**(免疫不全等の者を除く)】
- ・ 第2期:**中学校3年生まで** 【目標:**95%以上**】

※ 対象者あて**段階的に個別勧奨(案内通知)**を実施

ウ 実施期間

令和9年3月末までの時限措置(状況により延長を検討)



【取組2】環境整備による0歳児の感染予防

(1) 0歳児を持つ1回接種以下の保護者数(想定)

概ね2,000人程度

10,395人(R7出生) × 2人(父母) × 7.9%(R7第2期末接種) = 1,642人

(2) 環境整備による感染予防策

ア 目的

『父母の免疫を高めることで、0歳児の予防環境を整備する』

イ 対象者及び支援

- ・ 対象者:**0歳児を持つ同居の父母**で、**接種歴が1回以下**の者
- ・ 支援:**接種費用(初診料・技術料を除く)1回分**
又は抗体検査費用1回分を助成

ウ 実施期間

事業開始から当面の期間



【取組3】麻しん予防の啓発強化

(1) 麻しん予防に関する注意喚起(ポスター等の作成)

ア 目的

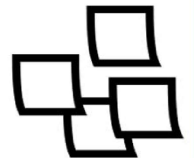
『確実な2回接種に向け、任意接種検討の機会を創出する』

イ メッセージ例

- ・ **増えています。麻しんのリスク!!**
- ・ **感染予防! マスク・手洗い防げません!! 接種歴の確認を!!!**
- ・ **気を付けてほしいことO(マル)箇条 など**

(2) 市内医療関係5団体との連携

医師会・病院協会・歯科医師会・薬剤師会・看護協会と連携し、**院内等におけるポスター掲示や患者への呼びかけを実施**



【取組4】その他関連する取組

- 「保育所・学校における麻しん対応」に関する流れの整理及び周知
- ワクチンの供給状況を踏まえた優先順位の整理

6 今後の主なスケジュール

- 関係団体等との調整 : 5月下旬から6月下旬
- 予防対策の強化・拡充: ワクチン供給等を踏まえ、7月から順次取組を開始

令和8年度のMRワクチンの供給見込みについて

- MRワクチンの製造販売業者である第一三共株式会社及び阪大微生物病研究会は、令和8年1月に限定出荷を解除。更に、武田薬品工業株式会社は令和8年6月頃より出荷再開する見込みを公表している。
- MRワクチンの令和8年度の医療機関への納入量は、**例年と同等以上となる見込み**。
- 製造販売業者に対し、MRワクチンの需要状況を踏まえた**更なる前倒し出荷等を依頼**。

MRワクチンの医療機関への納入量 単位：千本

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和6年度 実績	212	197	174	170	157	152	171	147	121	123	143	182	1,950
令和7年度 実績	196	182	175	165	145	157	151	118	108	114	122	192	1,825
令和8年度 見通し	189	188	258	176	159	173	176	154	120	124	123	171	2,010

※1 数量については、阪大微生物病研究会、第一三共株式会社及び武田薬品工業株式会社のMRワクチンの医療機関への納入量の合計

※2 令和8年2月末時点での企業からの聞き取り結果を基に作成

※3 令和8年3月以降については、医療機関への納入量の見通しを記載